

Campylobacter jejuni/coli の血清型別に関する研究

— Lior の血清型別システムの導入 —

齊藤香彦・新垣正夫・高橋正樹・工藤泰雄
伊藤 武・大橋 誠・森田盛大・齊藤志保子
船橋 満・石原政光・小林一寛・田口真澄
佐々木実己子・片山 淳・松崎静枝・原田誠也

感染症学雑誌, 第66巻3号, 340~348 (1992)

国際カンピロバクター血清委員会が統一法の基礎とすると決めたLiorの型別法の標準菌株26種を選び, これらにLiorの型別法には含まれない4種のTCKシステムの標準株を加え30種の型の型別用因子血清とスクリーニング用プール血清を作成した. そしてそれらを用い下痢症由来分離株の型別を行った.

C.jejuni による集団下痢症23事例由来の654株については, 603株(92.2%)が型別され51株(7.8%)が型別不能であった. 型別された603菌株の内570菌株は単一の因子血清と反応したが, 2事例から検

出された27菌株は2種の因子血清と, 1事例由来株の6菌株は3種の因子血清と反応した.

散発下痢患者から検出された1,198菌株を対象に型別を行ったところ, 883菌株(73.7%)が型別され, 298菌株(24.9%)が型別不能, 17菌株がR型でスライド凝集反応に供試できなかった. 型別された菌株の内113菌株は2種以上の因子血清と反応した. 高頻度に見られた血清型はLIO 4, TCK 1, LIO 2, LIO 11, TCK 12, LIO 1などであった.

今回作成した30種の抗血清は充分実用価値があると考えられた.